宮城県内の伝承施設をめぐり、施設の特徴や取り組みについて伺いました。

石巻市 みやぎ東日本大震災津波伝承館

宮城県沿岸地域の震災の記憶と教訓を伝え継ぐ

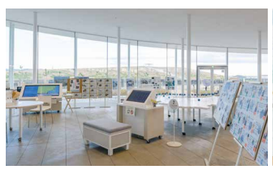
当館は、「かけがえのない命を守るために、未来へと記憶を届ける場」をコンセプトに、東日本大震災の記憶と教訓を後世に伝え継ぐことを目的とし、令和3(2021)年6月に開館しました。映像シアターやパネル展示を通して、県内沿岸地域の被災の状況や復興に向けた取り組み、被災された方や復興に向けて取り組む方々の声をご紹介するなど、様々な角度から震災について考えていただけるよう発信しています。当館が建つ石巻市南浜地区は、目の前に太平洋を望み、震災前は1,100世帯を超える方々が暮らしていた町でした。震災による津波とその後に発生した火災により500名以上の方々がお亡くなりになり、甚大な被害に見舞われた地域です。周辺は「石巻南浜津波復興祈念公園」として整備され、震災でお亡くなりになられた方々の追悼と慰霊の場となるとともに、市内でお亡くなりになられた方々のご芳名が刻まれた「慰霊碑」や、それぞれの思いを捧げていただく「追悼の広場」などがあります。

企画員　五十嵐 綾さん

次なる災害への備えを考えるきっかけに

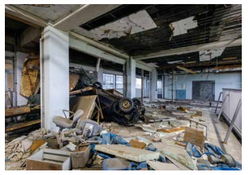
ご来館いただいた皆様からは、かつて市街地だった場所を訪れたことで被災の大きさを改めて感じたという声や、災害時にどんな行動を取るべきか、日頃から防災を考えるきっかけになったなどのご感想をいただいています。令和4年4月には、伝承館に隣接し、津波による火災で延焼した「石巻市震災遺構門脇小学校」が公開される予定です。その他、MEET門脇など、民間団体の伝承施設もありますので、周辺施設と併せてご覧いただけるような連携づくりにも取り組んでいきたいと考えています。

開館から半年が経ち、施設としての課題も様々見えてきました。震災の発生から時間の経過とともに、震災を経験していない世代も増え、当時の記憶や関心の低下が避けられないことを実感しています。全国的にも災害が多発するなか、震災の記憶や教訓は関心のあるなしにかかわらず伝えていかなければなりません。今後は、子どもたちなど次世代に向けた継承についても展開していくとともに、県の伝承施設として、当館への来館をきっかけに各地域の伝承施設へと足を運んでいただくゲートウェイ(玄関口)としての役割も果たすべく、各施設や語り部団体とのネットワークを強化し、連携企画なども実施していく予定です。私たちが経験した悲しみを繰り返さず、次なる災害への備えを確かなものにできるよう、震災の記憶と教訓、復興に向けた地域の取り組みを伝え続けていくことが私たちの責務です。



みやぎ東日本大震災津波伝承館
宮城県石巻市南浜町2丁目1-56
(石巻南浜津波復興祈念公園内)
TEL:0225-98-8081(展示見学に関すること)
0225-98-7401(公園利用に関すること)
休館日:毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌日)／年末年始(12月29日～1月4日)
※毎月11日は曜日・祝日にかかわらず開館

気仙沼市 気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館



気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館
宮城県気仙沼市波路上瀬向9-1
TEL:0226-28-9671
休館日:月曜(月曜が祝日の場合は翌日)／
祝日の翌日(土日、GW期間を除く)／年末年始(12月29日～1月4日)

被災した高校の旧校舎を遺構として保存

東日本大震災による津波で被災した「気仙沼向洋高校」の旧校舎を遺構として保存し、伝承施設と併せて公開しています。4階の床上まで津波が到達した旧校舎では、破壊された外壁や散乱した机や椅子、押し流された車などその爪痕を被災当時のままの姿で見ることができ、津波の威力やその恐ろしさを直接的に伝えています。併設する伝承館は展示・研修施設を備え、映像シアターや写真によってあの日気仙沼で起こった出来事を伝えるとともに、語り部の皆さんらが施設を案内する「語り部ガイド」も。休日には向洋高校の生徒有志らも語り部活動に参加し、自らの被災体験や地域の人々から学んだ話を交え、当事者の記録や記憶、それぞれが抱える想いを伝え続けています。

震災を「自らのこと」として受け止めてもらうために

当館では気仙沼の津波災害を中心に伝えながら、防災教育の一貫として災害時に役立つセミナーや体験学習を行い、日頃から防災意識を高めてもらえるような取り組みも行っています。近年は全国的に自然災害が多発していますが、当館を訪れていただいたことで震災を自らのこととして捉え、日常生活を過ごすなかで、今後起こりうる災害への備えや向き合い方を考えるきっかけづくりなど、防災意識の醸成につなげていけるよう取り組んでいきたいと思います。

館長　佐藤 健一さん

南三陸町 南三陸町震災復興祈念公園

南三陸町震災復興祈念公園
宮城県本吉郡南三陸町志津川字塩入地内
TEL:0226-46-1377(南三陸町建設課)

南三陸の震災と教訓を未来へつなぐ

南三陸町震災復興祈念公園は、東日本大震災の記憶と教訓を次世代につなぎ、また鎮魂と復興への祈りを捧げる場所として整備されました。この公園は、津波によって壊滅的な被害を受けた志津川地区に位置し、町民の生活再建や復興工事の進捗に合わせて部分的に開園しながら、令和2(2020)年10月に全体開園しています。公園内には震災によって犠牲になられた方々の名簿を納めた「名簿安置の碑」や復興への祈りを捧げる「祈りの丘」があり、そこから志津川湾や旧防災対策庁舎を望むことができます。隣接する南三陸さんさん商店街との間には、建築家の隈研吾氏のデザインで再建された「中橋」が架かり、公園と市街地、また町民と訪れた方々をつなぎ、交流や賑わいを生む懸け橋となっています。

企画課長　佐藤 宏明さん

震災伝承館が開館予定

年内には、隣接地に震災伝承館が開館する予定です。防災学習などのラーニングプログラムを活動のメインに、被災状況や復興への歩みを伝える展示やアーティストらの作品展示など様々な視点や表現を入り口に震災を考える場所になります。三陸道の延伸によってアクセスが向上し、当館だけでなく周辺の伝承施設や遺構を訪れてくださる方も見込まれます。この町で起こったことを語り継ぎながら、広域的にも連携し、町内外に足を運んでいただく機会をつくっていきたいと思います。

女川町

東日本大震災遺構　旧女川交番

津波で横転した交番を被災当時のまま遺す

女川町が震災遺構として保存する「旧女川交番」は、昭和55年（1980）年に建てられた鉄筋コンクリート造2階の建物で、津波の引き波により基礎部分の杭が引き抜かれ、現在の位置に横倒しになりました。鉄筋コンクリート造の建物が津波で倒壊・転倒した事例は世界的に見ても希少で、漂流物がぶつかって破壊された痕跡や漂流物などの残骸を当時のままの状態で遺しており、津波の威力と恐ろしさをご覧いただけます。遺構とともに、パネル展示を通して震災前の女川の街並みや被災直後の状況、震災から立ち上がった人々の復興に向けた歩みをご紹介しながら、その記憶と教訓を伝えています。

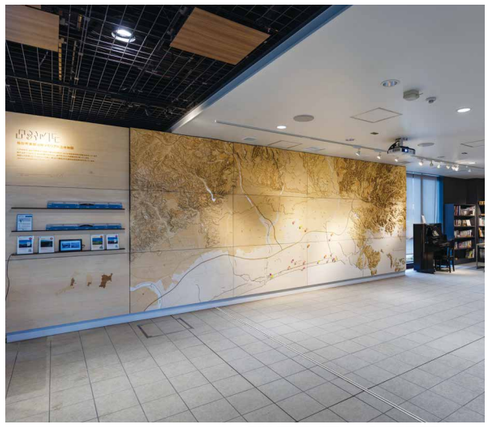
経年劣化を許容した「見守り保存」

保存にあたって様々な観点から町民らと議論を重ねた結果、現在の位置に被災当時の姿のまま遺すことを重要視し、保存のための屋根の設置や大規模な補強を行わず、経年劣化を許容しながら100年程度の保存を目指す「見守り保存」という方針を定めました。震災の恐怖や悲しみはもとより、これからを担う世代をあの悲しみや苦しみに遭わせないために、あの日からの歩みの中で得た学びや気付きを重ね、いつかの将来に郷土を災害が襲ったときや人生が何かに見舞われたときなど、未来を生きる誰かの支えになれる役割も担えたらと思っています。また、そう在り続けられるよう、遺構の保存を通して震災の記憶の風化防止に取り組んでいきたいです。

東日本大震災遺構　旧女川交番
宮城県牡鹿郡女川町海岸通り1（海岸広場内）
TEL：0225-54-3131（女川町企画課）

仙台市

せんだい3.11メモリアル交流館



せんだい3.11メモリアル交流館
宮城県仙台市若林区荒井字沓形85-4
（地下鉄東西線荒井駅舎内）
TEL：022-390-9022
休館日：月曜（月曜が祝日の場合は翌日）／
祝日の翌日（土日、祝日を除く）／年末年始、臨時休館日

交流を介して震災や地域の記憶を伝える施設

東日本大震災の記憶と経験を媒介に、コミュニケーションを通じて知恵と教訓を紡ぎ出し、未来・世界へとつなぐ沿岸部の拠点として、平成28（2016）年2月に開館しました。地下鉄東西線荒井駅に直結する館内には、交流スペースや展示室、市民活動などの場となるスタジオがあり、様々な人々が行き交い、集い、震災や地域の記憶を語り継いでいく場所です。常設展では仙台市内の被災状況や復興の様子を紹介しており、地域の歴史家やクリエイターらとともにつくる企画展では、震災前の地域の歴史や暮らしの様子にも触れ、震災や地域を多角的に知り、学べる場となっています。

世代、地域を超えて語り継ぐための活動を模索する

津波被害の大きかった沿岸地域への玄関口としての役目もあり、震災遺構である荒浜小学校などへの訪問の前後に訪れてくださることもあります。展示を通して震災について学び、話す場であるとともに、何かを「めざす」ばかりではなく、それぞれが思いを抱えたまま、ただひたすらゆっくり「すごす」場でもありたいと思っています。開館から5年が過ぎた今、伝承は決められたことをずっと続けるのではなく、その時々で変化するものだとも感じています。今後はもっと館を外にひらいて交流のエリアを広げ、また表現の形を模索しながら、世代、また地域を超えて語り継ぐための活動を続けていきたいと思っています。

館長　佐藤 敏行さん

東松島市

東松島市震災復興伝承館／旧野蒜駅プラットホーム

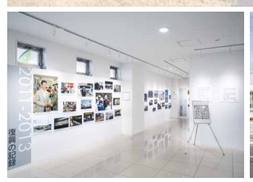
JR仙石線の旧野蒜駅舎を活用した伝承施設

「東松島市東日本大震災復興祈念公園」内に位置し、東松島市の当時の被災状況や復興に向けた取り組みを発信しています。元はJR仙石線の旧野蒜駅舎として利用されていた建物で、館の後方には津波で被災した駅のホームを震災遺構として保存しています。平成28（2016）年に開館した後、震災から10年を機に、復興過程に併せて市が目指すべきこれからの姿もご紹介する内容へリニューアルしました。語り部の皆さんもここを拠点に周辺地域をご案内しており、語り部さんとの会話をきっかけに市内各地域に足を運んでくださる方も多くいらっしゃいます。

交流を通して震災を伝える場であり続けたい

震災を経験していない世代も増えるなか、次世代へどう伝え、未来の災害へ備えてもらうかが課題です。周辺にある防災体験施設とも連携し、地域を巡りながら防災を学べる仕組みも整備したいと考えています。震災伝承はいつまで必要というわけではなく、これから先ずっと語り継がなければならないもの。建物があれば完結できることではなく、そこに人がいて、交流があってこそ次につながっていくと思います。地元の方々にとって馴染みある駅舎だったということもあり、ふと立ち寄ってくださるなど、ここに来れば誰かに会える場所になっていることも嬉しいですね。震災伝承とともに交流の場としての役割も担いながら、当館がこの場所にある意味を考え続けていきたいです。

東松島市復興政策課
伊藤 健人さん



東松島市震災復興伝承館／
旧野蒜駅プラットホーム
宮城県東松島市野蒜字北余景56-36
TEL：0225-86-2985
休館日：毎月第3水曜

名取市

名取市震災復興伝承館

名取市震災復興伝承館
宮城県名取市閖上東1丁目1-1
TEL：022-393-6520
休館日：火曜（火曜が祝日の場合は翌日）／
年末年始（12月29日～1月3日）

被災状況と復興への歩みを発信する防災拠点

名取市閖上地区にある「名取川閖上地区河川防災ステーション」内に整備された当館は、東日本大震災の記憶と教訓を未来に伝承し、災害への備えの大切さを伝え、未来の命を守ることを目的に整備した施設です。館内では、展示や映像、地域の皆さんによる語り部活動を通して、被災当時の閖上地区や下増田地区の状況や復興への歩みを知っていただくとともに、地域防災の大切さを考える拠点となっています。また、周辺の観光施設と連携し、現在の名取の魅力を知っていただけるよう発信しています。

地域による防災や復興の在り方を伝えていく

震災前は、地理的に「ここには津波が来ない」と信じ、逃げなかったことで失われた命が多くありました。閖上地区は津波によりほぼ全域が被災・流出したため、震災後は復興計画に基づき、まち全体が津波防災機能を担うよう再構築されました。そのため大規模な震災遺構は残っていませんが、災害に備えたまちづくりの在り方を発信しながら、近隣の伝承施設や遺構と連携し、地域ごとに異なる防災や復興への取り組みを奥行きをもって伝えることを心がけています。昭和三陸津波を伝える石碑が100年足らずで忘れ去られていたことを考えると、1000年後の災害に備え、伝承施設を存続させていくこと自体が非常に困難です。地域や世代を超えて記憶と教訓を伝承するため、アーカイブ化なども行いながら、地域や人々との関わりを絶やさず伝承に取り組んでいきます。